



Let's TANDQ 便り

本質を問う学びへ 教室の学びを変えるためのニュースレター

今号の内容

キックオフから2年
「瞳輝く学びの実装化」オンラインイベントの開催報告

【プログラム】

13:30 オープニング・趣旨説明

『高校探究プロジェクトの活動を振り返って』

- ・連携教育委員会等の実践
- ・地域を越えた共創・協働型研修
- ・「総合的な探究の時間」の取り組み
- ・Z-kai×東京学芸大学附属高等学校「教科の授業の探究化セミナー」

14:40 パネルディスカッション

『授業文化のアップデート』

国語科，数学科，地歴科チーム

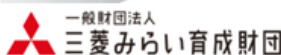
15:30 オンライン対話

16:00 次年度に向けて・クロージング

東京学芸大学 高校探究プロジェクト

キックオフから2年 瞳輝く学びの 実装化

テーマ 高校文化のアップデート



本プロジェクトは、三菱みらい育成財団の助成事業です。



東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構
高校探究プロジェクト

高校・授業文化のアップデートに向けた共創を！

2021年12月のキックオフから2年あまり。この間の活動を振り返り、「高校文化のアップデート」について考えるイベントを開催しました。当日は、教員、指導主事、高校生や大学生、様々な企業の方等、多くのみなさまにご参加いただき、連携教育委員会の指導主事の方からの実践報告や授業研究ワークショップ参加者とのパネルディスカッションを通して、次なる一歩へとつながるイベントとなりました。

オープニングでは、本プロジェクトの西村リーダーから「『探究』とは生徒の想いの追究、『探究的な学び』とは『探究』過程を通じた学びである」というめ線合わせの後、「入った学校、出会った先生による学びの質の差を小さくしたい」という想いのもと「探究・探究的な学びの実装化」を目指して活動してきたプロセスと、2030年に向けた構想をお伝えしました。

プログラムのはじめは、連携教育委員会等による、これまでの取組の報告です。3年間「授業研究セミナー」を通じて連携してきた北海道教育庁高校教育課からは、指導案の検討を重ねることで生徒に身につけさせたい力がより明確になり、授業内容の改善はもちろん、参加する先生方の協議の質の高まりを感じたことや、検討を重ね実施した授業では、生徒の表情や目の輝きが異なることを実感し、先生方が授業研究の意義を感得され、授業改善への意欲が高まっていったという報告をいただきました。さらに道教委が取り組んでいる「探究チャレンジプロジェクト」をご紹介いただきました。そこでは、道外の高校生も参加し、探究活動の成果の発表・交流をオンラインで実施し、今後は海外の高校生も加えて展開していくとのこと。探究の実装化に向けて参考になるアプローチです。

連携2年目となる大分県教育庁高校教育課からは、「指導教諭をリーダーとしたチームによる授業改善の推進」事業についてご報告いただきました。これは、**県全体に探究的な学びを実装するには中・長期的なスパンでの取組が必要である**という認識のもと、授業改善のためのリーダーの育成を目的とする事業です。この取組を通じて、次第に、各高校の教員の授業の見方や授業づくりの考え方が変わってきている様子もお話いただきました。また、今年度からは、県内の参加を希望する高校生が集い、個別最適な学びや探究的な学びを体験する「地域における個別最適な学び推進事業」も始動し、参加者の、考えることの楽しさを感じた、今後疑問を持って考える過程を大切にしたいといった感想をご紹介いただきました。

実施状況について

○授業研究セミナー
5教科(国・数・地・理・英)×4ブロック(道央、道南、道東、道北)
全道20会場で実施、458名参加

○授業改善セミナー
4教科(保健体育、情報、芸術(音楽)、家庭)
全道10会場で実施、224名参加

高校探究プロジェクトと連携した授業研究セミナー
→5教科で各1ブロックで実施

①指導教諭をリーダーとしたチームによる 授業改善の推進

- 平成28年度: 国語、英語、数学、理科(物理)、音楽
- 平成29年度: 国語、英語、数学、理科(物理)、工業
- 平成30年度: 国語、英語、数学、地歴(日本史)、理科(物理、化学)、農業
- 令和元年度: 国語、英語、数学、地歴(日本史)、理科(化学、生物)、家庭
- 令和2年度: 国語、英語、数学、地歴(地理)、理科(生物)
- 令和3年度: 国語、英語、数学、地歴(日本史)、理科(物理)、工業
- 令和4年度: 国語、英語、数学、地歴(日本史)と連携を開始
- 令和5年度: 国語、英語、数学、地歴(日本史)、理科(化学)、音楽
- 制試験実施は、H28～H29年度で、4.2名(実人数)がこの取組に参加

「文理探究科」を新設した5校で設立された長崎県文理探究科連絡協議会との連携では、学校を越えて教科チームを構成し、現場の教員がリーダーとなって、授業研究を推進してきました。連携2年目となる今年度は、参加校が増え、県全域へとボトムアップ的にコミュニティが拡大しつつあります。また、参画校の教科横断プログラム（学校設定科目）と連携して研究授業を実施しました。これは、他教科とのつながりや教科横断の意義を強く意識する機会となりました。

なお、3月18日には、この事例紹介をもとに、「総合的な探究の時間」に組み込める教科横断プログラムの教材開発ワークショップを開催します。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

東京学芸大学 高校探究プロジェクト

「総合的な探究の時間」

教科横断プログラム 教材開発ワークショップ

2024年3月18日（月）17:00～19:00
オンライン開催



長崎県立大村高等学校の学校設定科目「OMURA STEAM LABO」の「哲学入門」の事例紹介をもとに、「総合的な探究の時間」に組み込める教科横断プログラムの教材を一緒に開発しませんか。校内等で、チームを組んでご参加ください！もちろん、個人参加も大歓迎です！

QRコードより、お申し込みください

詳細はコチラ：<https://g-tanq.jp/crosscurriculum>

探究的な学びの実現に向けた協働・共創プロジェクト

みなさまも一緒に、『わくわく』を共有し



広島県立教育センター企画 令和6年度共創型研修（県を超えた学び・つながりの場）

第1回 6/28（金）	第2回 8/8（木）	第3回 11/22（金）	第4回 2/10（月）
13:30～16:30	13:30～16:30	13:30～16:30	13:30～16:30
Let's 本音で“探究”トーク！	他県の総探、どのような“探究”？	教科で行う“探究”ってどのような学び？	広げたい“探究”の輪、どのように広げる？

わくわくメンバー大募集！！

地域を越えた共創・協働型研修の実現

昨年度実施した「指導主事等対象のオンライン対話」をきっかけに発案された「地域を越えた共創・協働型研修」について、広島県立教育センターと青森県総合学校教育センターの指導主事より、その実現までのプロセス、特にいくつも存在した壁の越え方や、実際の全4回の研修の様子等をご報告いただきました。また、次年度の構想とともに、研修プログラムを共創する「わくわくメンバー」も募集されました！（ご関心のある方は高校探究プロジェクト事務局までご一報ください。）

この報告に対しては、「お話しいただいた指導主事の方が本当にキラキラ輝いて見えました。山に登っている最中には苦しいことがあっても、山に登った人だからこそ見える景色の素晴らしさを伝えたいという想いを強く感じました」といった声も届きました。私どもも、本実践により、「令和の教員研修」の柱は「本質的なウェルビーイング」「エージェンシーの活性化」「価値観のアップデート」の3つだと確信いたしました。

高校生と高校教育のエコシステムへ挑む！

昨年度から、高校生の声をもとに「私たちの『探究』をつくらうプロジェクト」を始動し、今年度は4月から継続的に「探究ミニセミナー＆交流会」も開催してきました。その第1回に話題提供いただいた「合同会社あしたの学校」のCOO岡田羽湖さん（国際基督教大学4年）からは、探究活動において課題設定のフェーズでの「視座」の上げ下げの重要性についてお話しいただきました。さらに、探究学習には何かひとつのパターンといったものや正解があるわけではないので、高校生や先生方と一緒に、これからも探究学習を探究していくということを粘り強くやっていきたい、先生方ご自身は「総探」に対しての視座の高さはどうですか？というメッセージをいただきました。

大学生である岡田さんの想いやメッセージのインパクトが大きく、日本の未来に可能性を感じたといったコメントがたくさん届きました。

また、高校教育には、入試対策と探究を二項対立化してしまう傾向が依然としてあります。このような高校教育のエコシステムに挑んで実施した「Z会×東京学芸大学附属高等学校コラボセミナー『教科の授業の探究化』」について、Z会の花岡正司氏よりお話しいただきました。社内の教科担当者は、入試問題が変わってきていることは理解していても学校現場の状況は見えていなかったが、セミナーの準備段階から当日の様子を踏まえ、入試という出口を見据えた場合、一人の先生の1回の授業でどうにかなるものではないと感じ、業種を越えて、みなさんと協働・共創して、段階的に計画をたて、取り組んでいく必要があるという貴重な示唆をいただきました。

当事者意識と視座

当事者
・視座が低い状態
・視座を上げ、他の事例を見る

非当事者
・視座が高い状態
・視座を下げ、より当事者に近い目線で物事を見る

視座とは何か

- 視点:「どの観点で」物事を見るか／考えるか
- 視野:「どの範囲で」物事を見るか／考えるか
- 視座:「どの立場で」物事を見るか／考えるか



先生方は「総探」に対してどうですか？

教科の授業の探究化
オンラインセミナー

#1 進学校・数学科での挑戦
2023年3月18日(土)
20:00-21:00・オンライン開催

教科の授業の探究化
オンラインセミナー

#2 探究をもっと身近に！理科(生物)の挑戦
2023年5月12日(金)
20:00-21:00・オンライン開催

教科の授業の探究化
オンラインセミナー

#3 探究と実験！理科(化学)での挑戦
2023年8月4日(金)
20:00-21:00・オンライン開催

教科の授業の探究化
オンラインセミナー

#4#5 地理歴史科での挑戦
地理分野: 2023年12月9日(土)20:00-21:00
歴史分野: 2023年12月26日(火)16:00-17:00
オンライン開催



高校探究プロジェクトは、教育旅行の探究化や探究力アセスメントの開発など、多面的に、高校教育のエコシステムに挑んでいきます！ 私たちとビジョンを共有し、共創できる企業等を募集しています！

パネルディスカッション～授業文化のアップデート～

各教科で、公募で募ったメンバーで授業研究チームを編成し、オンラインベースで授業研究ワークショップを実施してきました。それらのワークショップへの参加者をパネリストにお迎えし、そこでの学びや変容などをお話いただきました。

2023年度国語科授業づくりチームの歩み②

◆2学期：研究授業② {事前4回・授業動画・事後1回}×2チーム

○チームわたのほら
11月17日 新海颯大先生 高2古典探究「大鏡」×「栄華物語」
花山天皇の人物描写・語りの視点の違い→読者が受ける印象への影響
授業者に寄り添う検討会のあり方を再考する

○チームまほろば
11月17日 武石真穂先生 高2古典探究 和歌×英訳×現代短歌訳
古今集〈花の色は〉と4つの翻訳を比較→古文ならではの表現を発見
指導事項を使った生徒の自己評価、いいな

◆3学期：ゼミ活動 3回
2月7日 実践紹介と意見交換 授業と教材・組織づくり
2月29日 読書会 講師：浅田孝紀先生『言語文化教育の道しるべ』
3月11日 年間計画の立て方・考え方 講師：我妻先生、高坂先生

国語科チームからは、チームリーダーの西亀咲江先生（聖ドミニコ学園中学高等学校）より、昨年度開催した国語科のワークショップに参加して、「自分だけが探究的な授業をできればいいのではない。組織的な授業力アップが必要だ」と気づいたこと、授業づくりチームに参加し、7月に研究授業に向けた検討会、その後、二つのチームに分かれて授業研究、3学期にはメンバーの声をもとにゼミ活動を企画・実施してきたことが報告されました。公立・私立、地域等の異なる多様な教員が集い、授業づくりについて対話することの楽しさがお話の端々に溢れており、高校探究プロジェクトがめざす「探究的な学びの実践コミュニティ」が実現可能であることを実感することができました。

数学科では、授業研究ワークショップに加えて、授業研究のリーダー向けワークショップも開催しています。それぞれのワークショップから森野高広先生（滋賀県立守山高等学校）と斎藤真彦先生（横浜市立金沢高等学校）にご登壇いただきました。

森野先生からは、探究的な学びには、特別な問題を用意する必要があると考えていたが、教科書の問題でも、生徒の問いを引き出し、それをもとに指導計画を立てることで可能なことを学んだこと、それにより教材の見方が変わってきたことや、授業で生徒の声や考えを大切にすることになったことが報告されました。斎藤先生との対話を通して、生徒の変容として「なんとなく解けてしまうことに危機感をもつようになった」といった声が出てくるようになったことや、授業の振り返りの記述に「なぜ？」が増えてきたことなども明らかにされました。最後に、斎藤先生より、森野先生との対話はもちろん、今まで参加したワークショップは、自身が成長するとともに楽しい時間だったと本プロジェクトの取り組みを価値づけていただきました。



地歴科チームからは、海老名豊昭先生（自修館中等教育学校）にご登壇いただきました。「単元を貫く問い」が変わり、歴史上の事実を根拠に、現代的課題への自らの考えを問う授業を志向するようになったとのこと。また、地歴科チームのメンバーで、小学校教員である倉嶋

結実子先生からは、高校の授業研究から新しい視点を得て、小学校の歴史学習のカリキュラム再構成にチャレンジしたことによる、児童の歴史認識の変容をご紹介いただきました。最後に、本プロジェクトの日高先生から、こういった小学生の学びを中学・高校とどのように引き上げていくのか、小中高の垣根を越えて、児童・生徒の学習をどのようにデザインするかなど、新たな課題が提起されました。

オンライン対話

最後に、ブレイクアウトルームを設定し、「日本の高校文化・授業文化がアップデートされた学校とは？」「生徒にどんな学びが実現されている？」をテーマに対話していただきました。短い時間設定となりましたが、「高校・授業文化をアップデートしている学校とは、エースや4番といったスペシャリストの教員がいるのではなく、どの教員も伸び伸びと輝いている学校ではないか」「学校での学習は、やらされるものではなく、楽しいもの。課題や大学入試問題なども、学びが実感できるような、ワクワクが感じられるものであってほしい」といった対話がなされました。「様々な話を聞いた後、アップデートされた学校や生徒の学びを想像する時間は、ここまでの話を整理し思考を深める時間になった」というお声をいただきました。高校生がしっかり考え、自分の想いを発言されている姿に触れ、身が引き締まる思いをされた先生方が多かったようです。

チャットでのコメント

共創・協働型研修の報告を受けて

- ・ワクワクが伝わる素敵な発表でした！
- ・ワクワクの種まきは時間がかかるけれど、仲間がいれば早く花が咲くのではと感じています。
- ・みんなで大きな花を咲かせましょう！

パネルディスカッションを受けて

- ・どの教科もチームメンバーそれぞれの視点やよさを生かし、生徒の様子を丁寧に見取り、教科の本質に迫る努力を続けていくことで、相互に高校・授業文化をアップデートされていったのではないのでしょうか。
- ・国語科授業づくりチームに参加して、「仲間を得た！！」という喜びを感じています！！

オンライン対話を終えて

- ・高校文化のアップデートとは？その場限りの知識・知恵ではなく、生徒の中で長く生きて働く学び、問いの投げかけが大事、生徒の思いからスタートする探究学習、という話題が出ました。
- ・将来有望すぎる高校生も顔を出してくれて、日本の未来は明るい！と感動しました！

ご参加いただいたみなさまから届いた声

本イベントを通して、キックオフからの2年の取り組みを、みなさまとともに価値づけることができ、お寄せいただいたお声より、次年度以降へのパッションが高まりました！今後ともよろしくお願いいたします！

<高校生の声>

・たくさんの学びがありましたが、話の内容よりも、**全国にはこんなにもたくさんの先生が熱や思いを持って、授業や探究活動を創っているということを知れたことに意味があった**と思います。ブレイクアウトルームで他県の先生ともお話できてめちゃくちゃ嬉しかったです！（公立・島根）

・探究×教科の融合の現状がどのようなものか生徒側からよく分かりました。**教員の改革と共に生徒の変容を捉えていくのも大事**ですね。教科同士の繋がりも気になります！（公立・東京）

・イベントの最初に西村先生が仰っていた「入った学校、出会った先生による学びの質の差」について、私自身高校時代に苦しんだ経験があります。今現在も、自分より質の高い教育を受けてきた人達と同じ社会に出ることに不安を感じることもあります。本日パネルディスカッションで登壇してくださった先生方をはじめ、このイベントに参加している先生方が率先して、**学校の授業を少しずつでも変えていってくだされば**いいなと思いました。（私立・東京）

<教員・一般の方の声>

・昨年は県の授業研究、今年は個人で参加させていただき、**授業をつくる過程を他の先生と共有することに価値を感じています**。先生方と話した内容は、ふとした時に授業構想に反映できることがあります。尊敬できる方と出会うことができ、良い機会に恵まれました。自分の学校でも、余裕はないですが、自分から何か動きたいと思っています。（高校教員・大分）

・社会の在り方・学び方が変化してきて、現場の教員の意識もだいぶ変化してきている。あとは、**どのような目線合わせをして実装していくかが、大きなカギを握っていると感じる**。そういった点で、広島県と青森県の取組、北海道と大分の取組み等は非常に参考になる事例であった。（高校教員・愛知）

・指導主事の方の裏での努力や熱量に大変感動しました。私も県内で授業研究や他校さんとの交流を深めたいとも思いましたし、**県全体で授業改善していこうという姿勢があれば、教師や学校による差が減り、学校という場がより魅力的になっていく**と思いました。自らも県全体の授業改善の渦の中にいる存在になりたいと感じました。（高校教員・滋賀）

・若い人たちが意欲的に関わっている姿に、**教育の将来の明るさ**を感じました。（高校教員・東京）

・今日、高校生の変容や実際の高校生の考えを聞いて、生徒たちが潜在的に持っている力を私達教員がわかっていない現状があるのではないかと感じました。まず**教員側が生徒たちを有能な学び手との認識を持った上で、一緒に学ぶ姿勢を持ちながら、教育のプロとして何ができるのか**、深掘りしていくことが、高校・授業文化のアップデートにつながるのではないかと考えました。（指導主事・大阪）

・「わくわく」が大切だと感じました。生徒も、先生も、そして子供を見守る親も。わくわくするような授業を実現していくには何が必要なのかを共に考えていきたいです。教員ではありませんが、何度か参加し、多くのことを学び、たくさんの思いにも触れることができました。**ここには希望、前に進めるという光がある**と感じています。今後ともトビラを大きく開き、続けていただけると嬉しいです。（一般）



高校探究プロジェクト特別顧問 (元文部科学省 初等中等教育局 主任視学官) 長尾篤志先生よりまとめのお言葉

今日のイベントを通して感じたことはいくつもあるのですが、その中から二つだけお話ししたいと思います。

一つは、若い人の感性や行動力が素晴らしいと思ったことです。感じていること、考えていることに深いところがあって、我々大人の側がそれをしっかり受け止めなければならないと強く思いました。

もう一つは、我々が「教科」と「総合的な探究の時間」、その両輪で回していくことにこだわっているということです。

各教科の話の中に「主体的・対話的で深い学び」という話がありましたが、これは間違いなく「探究的な学び」だと考えています。「探究的な学び」をする時に一番大切なことは目的意識です。私は数学教育が専門ですが、数学に限らずすべての教科で、目的意識とは問題意識、つまり、問いながら学ぶということだと考えています。総合的な探究の時間では、この「問うこと」「問題意識を持って課題設定すること」が一番大切になってきます。しかし、「総合的な探究の時間」で、「探究的な学び」をしっかり進めようとアクセルを踏んでも、各教科の授業が問いを持たせるような授業になっておらず、「探究的な学び」になっていないと、傍らでブレーキを踏むことになり、アクセルとブレーキを同時に踏むような形になってしまいます。「探究的な学び」は各教科と「総合的な探究の時間」の、この両方をうまく回していかなければ絶対にうまくいかないと考えています。

高校探究プロジェクトでは来年度も同じように各教科のコミュニティを拡げつつ、今課題になっている「総合的な探究の時間」をもっと楽に進めていけるように考えていると思っていますので、来年度も是非よろしくお願いいたします。

